

■ 市場動向とドコモの1年

携帯電話市場の動向

日本における携帯電話市場は、人口普及率の高まりを受け成熟期を迎える中、2010年度はスマートフォンやデジタルフォトフレームなどの新たな市場の拡大や、タブレット端末やゲーム機などの様々なデバイスに対応できるモバイルWi-Fiルーターの需要の高まりなどを受け、2011年3月末時点での携帯電話契約数は前年度比6.6%増の1億1,954万台となり、人口普及率は約93%にまで高まりました。

現在は各社とも端末を正価でご購入いただく代わりに販売奨励金に相当する額を基本使用料から割り引く販売モデルを導入しており、この販売モデルの浸透により音声ARPUは現在も低下する傾向が続いています。

そのため、携帯電話事業者各社はパケットARPUの上昇が課題となっています。パケット料金の利用については、定額制の料金サービスが主流になっており、特に日本市場においては各社とも2段階型の定額サービスを用意して、より安心してデータ利用を行っていただける環境を設定しています。また、スマートフォンなどのパケット通信利用が多いユーザーに対しては完全定額の料金サービスを用意しており、これらの料金サービスへの加入促進を図るとともに、高パケットARPUのユーザーの獲得や囲い込みに力を入れています。

一方で、スマートフォンやデータ通信端末の利用の高まりなどを受けて携帯電話事業者のトラフィック量は急激に増加しており、その対応も各社の課題となっています。また、2010年度においては、高速通信へのニーズに対応するLTEやDC-HSDPA、EVDOマルチキャリアといった無線技術を採用したモバイル高速インターネットの整備が急速に進みました。

ドコモの1年



